

健康医療部 保健医療室 保健医療企画課
 担当者 犬伏・原・伊庭 内線 2532
 メールアドレス iryokikaku@sbox.pref.osaka.lg.jp

万博開催に向けて医療・衛生体制の整備に取り組みます

～【重点】感染症対策強化事業費 他～

令和7年度当初予算額：1億4,657万8千円

(令和6年度当初予算額：8,389万円)

■目的

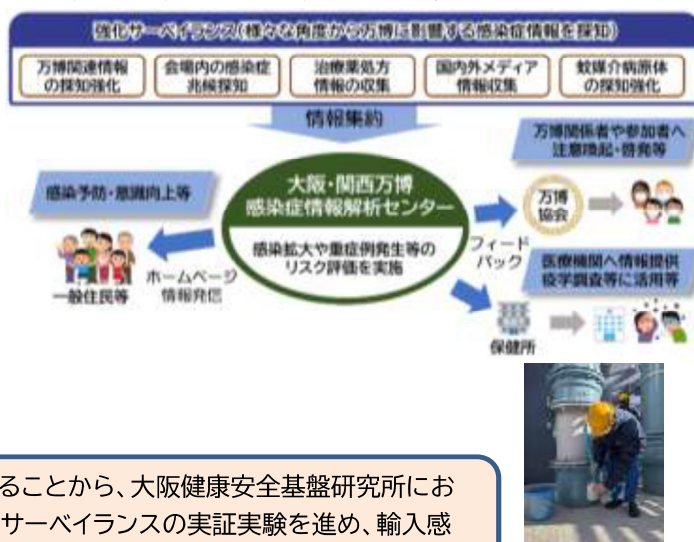
大阪・関西万博の開催に向け、感染症対策の強化や来阪する外国人受入医療体制の整備を図り、万博の円滑な運営に資するとともに、観光客の増加に伴う医療・衛生体制を整備。

■内容

○感染症対策の強化 【801万5千円】

- ・万博に向けた感染症対策の強化と万博を契機とした研究の推進。

- ・府、大阪市、大阪健康安全基盤研究所、国立感染症研究所で構成する大阪・関西万博感染症情報解析センターを令和7年1月14日から11月30日まで運用(終了時期は予定)
- ・収集した感染症情報からリスク評価を行い、関係機関への情報還元や住民等への情報発信を行い、感染症対策を強化



(夢洲下水の採水の様子)

- ・万博では世界各国からの訪日客が増えることから、大阪健康安全基盤研究所において会場付近の下水検体を用いた環境サーベイランスの実証実験を進め、輸入感染症等の動向把握など、将来的な実装を目指す

○救急受入体制の確保・強化

- ・万博協力病院での積極的な受入れが進むよう、搬送受入れに対し補助。

- ・博覧会協会が万博会場内に設置する医療救護施設(診療所3か所、応急手当所5か所)で処置が困難な患者については、会場外の医療機関に搬送
- ・会場からの患者の積極的な受入れを行う大阪市内の二次救急医療機関を「万博協力病院」とし、円滑な転院搬送を行うことで、医療救護活動を迅速かつ適切に実施(64病院と協定締結)



○外国人患者受入医療体制の確保 【5,170万3千円】

- ・増加が見込まれる来阪外国人の医療需要に対応できるよう、外国人患者受入れ医療機関の確保をめざすとともに、訪日外国人に対する情報発信を実施。

- ・外国人患者受入れ医療機関(R7.1月現在 **130 機関**)を拡充するため、受入れ環境整備を行うための補助を実施
- ・「おおさかメディカルネット for Foreigners」は、「英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、タガログ語、フランス語」の **8 か国の言語**に対応
- ・日本の医療のかかり方の動画等を掲載した、「おおさかメディカルネット for Foreigners」のさらなる情報発信



○解毒剤の確保供給体制整備 【149万8千円】

- ・テロ発生時に必要となる医薬品を確保し、医療機関等へ迅速な供給体制を整備。

○宿泊税を活用した施策

観光客が安心して旅行できるよう、観光客に対する医療情報の発信や外国人患者受入体制の整備等、観光客の受入環境を整備。

1. 観光客のための医療整備事業 【2,529万8千円】

- ・観光客の増加に伴い医療のひっ迫が懸念されるため、観光客が病気やケガとなった際に適切な医療が提供できるよう、観光客に対する情報発信等を実施。

- ・外国人観光客に対する効果的な**海外旅行保険の加入勧奨**
- ・感染症予防や医療機関への円滑な受診につながるために、多言語化したリーフレットを配布
- ・不要不急な救急要請の抑制に向け、観光客が急病になった際の相談窓口について啓発



2. 外国人患者受入体制整備事業 【3,498万7千円】

- ・外国人観光客に安心して旅行していただくため、けがや病気が重篤化する前に受診できる多言語対応可能な医療機関を拡充し、外国人患者受入体制を整備。

- ・外国人患者受入れ医療機関の対応力の向上を図るため、府内医療機関を対象に実務を想定した研修を実施

- ・外国人患者受入れの障壁となる、医療費未収金リスク低減につながる取り組み(保険・保証サービスの費用、職員の研修参加に係る費用、キャッシュレス化に係る初期費用)に対し補助

3. 生活衛生関係施設指導監督等事業 【2,507万7千円】

- ・観光客が衛生的で快適に府内宿泊施設で滞在できるよう、宿泊施設営業者等に対し宿泊施設のサービスや衛生管理向上に向けて働きかけるとともに、訪日外国人等観光客の宿泊等マナー向上の啓発を行う。

- ・宿泊施設のサービス、衛生管理向上のための講習会を開催
- ・訪日外国人等観光客の宿泊等マナー向上のための動画・コンテンツによる普及啓発

